

平成29年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
21112	生活と法律 Law and Daily Life	渡邊 和道	基礎	2	選択	2年 後期
科目の概要						
<p>本講義では、日常生活における法律問題について、解説を行う。具体的な紛争例を紹介し、その解決策を見出していくというかたちで授業を進める。本科目では、自立した社会人として、一般教養・技能・常識に裏付けられた思考をする力を身につけるために、法学の基本的な知識を習得することを目標とする。本講義の内容は、食物栄養学科ディプロマ・ポリシーの「単位認定にあたって重視する」項目として挙げられている能力を備えた人材、すなわち、「自立した社会人として、一般的知識と技能と常識に裏付けられた考え」を持った人材の育成に資するものである。</p>						
学修内容			到達目標			
① 法学の重要な原理について理解を深める。			① 法学の重要な原理を条文とともに説明できるようになる。			
② 日常生活における法的問題の具体的な解決方法を知る。			② 法的問題に直面した際の適切な解決方法をシミュレートできるようになる。			
③ 法律用語の基礎知識を身につける。			③ 新聞やニュースに登場する法律用語の意味を理解できるようになる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例				
前に踏み出す力	主体性	授業以外の時間を使い、自分で学修内容について調べ、予復習に取り組むことができる。				
	働きかけ力					
	実行力	開始時刻から終了時刻まで、授業に集中して取り組むことができる。				
考え抜く力	課題発見力	収集した情報を客観的に整理して、自分で課題を見つけ出すことができる。				
	計画力					
	創造力	資料を多角的に検討した上で、自分の意見を持つことができる。				
チームで働く力	発信力	課題に対する自分の意見を明確に打ち出すことができる。				
	傾聴力	他の受講生の意見に真摯に耳を傾け、自分の意見を組み立てる上での参考にすることができる。				
	柔軟性					
	状況把握力					
	規律性	講義に支障をきたす行動をせず、教室内の秩序を保つことができる。				
	ストレスコントロール力					
テキスト及び参考文献						
<p>指定しない。 講義では、資料を配布する。</p>						
他科目との関連、資格との関連						
学修上の助言			受講生とのルール			
講義では、可能な限り具体的な例を挙げながら説明する予定である。キーワードと具体例を結びつけることが、理解の第一歩である。			教員からの質問には、積極的に回答すること。			

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験	70	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> 用語穴埋め問題の正答数、論述式問題の回答の内容・分量によって評価する。 論述問題は、講義で取り上げた重要な原理について、「意義・定義・趣旨・具体例」のすべてを挙げて十分に説明できているものを A 評価、すべてに言及できているものを B 評価、そのうち3つに言及できているものを C 評価とする。 試験に際しては、参考資料など、すべての持ち込みを可とする。
		②	✓	
		③	✓	
		④		
		⑤		
小テスト				
レポート	20	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> 当日の授業内で提示した課題について、授業内に解答するという形式をとる。 課題の内容は、行政法に関する時事的な問題を予定している。 情報収集の際に、どのような媒体を用いてもよい(スマートフォン、パソコン、書籍等)。 答案の内容・文量を総合的に判断して採点する。文量が指定用紙1枚の 7 割未満のものに対しては、評価点を加えない。
		②		
		③	✓	
		④		
		⑤		
成果発表 (口頭・実技)				
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①		以下の社会人基礎力を評価するために、挙手による自主的な発言1回につき1点を加点する。 (主体性) 予復習の成果を授業における発言に織り込むことができている。 (実行力) 開始時刻から終了時刻まで授業に集中して取り組み、教員の質問に対して口頭で積極的に回答する。 (課題発見力) 講義や予復習の中で現代社会の課題を見いだすことができる (創造力) 資料を多角的に検討した上で、自分の意見を持つことができる。 (発信力) 課題に対する自分の意見を明確に打ち出すことができる。 (傾聴力) 私見と異なる見解にも真摯に耳を傾け、参考にすることができる。 (規律性) 活発な中にも秩序ある授業環境を保つことができる。
		②	✓	
		③		
		④		
		⑤		
その他				
総合評価 割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベル A (優) の基準	到達レベル B (良) の基準
講義で取り上げた憲法の重要な原理(次ページの学修内容に記載)について、対応する条文を挙げながら、「①意義②定義③趣旨④具体例」のすべてを十分に説明することができる。	講義で取り上げた憲法の重要な原理(次ページの学修内容に記載)について、「①意義②定義③趣旨④具体例」に言及しながら説明することができる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	法律学の基礎 科目の概要、今後の授業の進め方、学習のポイントを学ぶ。憲法、法律、条令の違いを学習する。	講義	科目の概要、今後の授業の進め方、学習のポイントを理解し、配付資料に要点を書き込む。	(復習) 講義に関する新聞記事を探し、目を通すこと。	180	主体性 課題発見力 規律性
2週 /	憲法1 日本国憲法の展開 近代立憲主義、現代立憲主義の概要と日本国憲法の歴史的な成立過程を学ぶ。	講義	近代立憲主義、現代立憲主義の差異と、日本国憲法の歴史的な成立過程について、説明することができる。	(復習) 立憲主義に関する配布資料を読み返し、概要をまとめること。	180	主体性 課題発見力 規律性
3週 /	憲法2 包括的人権と法の下での平等 日本国憲法 13 条、14 条の意義について、判例を分析しながら学ぶ。	講義	憲法 13 条、14 条の意義を理解し、配付資料に要点を書き込む。紹介した判例の趣旨を説明することができる。	(復習) 日本国憲法 13 条、14 条に関する配布資料を読み返し、概要をまとめること。	180	主体性 課題発見力 規律性
4週 /	民法1 民法の歴史的な成立過程、条文の構造について、条文と判例を分析しながら学ぶ。	講義	民法の歴史的な成立過程、条文の構造について理解し、配付資料に要点を書き込む。紹介した判例の趣旨を説明することができる。	(復習) 民法の成立過程に関する配布資料を読み返し、概要をまとめること。	180	主体性 課題発見力 規律性
5週 /	民法 2 物権と債権の性質上の差異について、条文と判例を分析しながら学ぶ。	講義	物権と債権の性質上の差異について理解し、配付資料に要点を書き込む。	(復習) 物権と債権に関する配布資料を読み返し、概要をまとめること。	180	主体性 課題発見力 規律性
6週 /	民法3 いわゆる典型契約について、その意義と、具体的に問題となるケースを学ぶ。	講義	典型契約について具体的イメージを持ち、概要を説明することができる。紹介した判例の趣旨を説明することができる。	(復習) 典型契約に関する配布資料を読み返し、概要をまとめること。	180	主体性 課題発見力 規律性
7週 /	民法4 不法行為について、その意義と、具体的に問題となるケースを学ぶ。	講義	不法行為に関する条文と判例を理解し、配付資料に要点を書き込む。紹介した判例の趣旨を説明することができる。	(復習) 不法行為に関する配布資料を読み返し、概要をまとめること。	180	主体性 課題発見力 規律性
8週 /	時事的な法律問題	授業内レポート	自分の見解を論理的に説明・記述することができる。	(予習) 時事的な法律問題を新聞などで調べておく。	180	実行力 創造力 発信力 傾聴力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	民法5 家族法の基本事項について、条文と判例を分析しながら学ぶ。	講義	家族関係に関する法的紛争について具体的イメージを持ち、解決方法を説明することができる。	(復習) 家族法に関する配布資料を読み返し、概要をまとめること。	180	主体性 課題発見力 規律性
10週 /	民事手続法1 民事裁判手続の概要について、条文と判例を分析しながら学ぶ。	講義	調停・仲裁を含めた広義の民事裁判手続について具体的イメージを持ち、概要を説明することができる。	(復習) 民事裁判に関する新聞記事を探し、目を通すこと。	180	主体性 課題発見力 規律性
11週 /	民事手続法2 破産・民事再生手続の概要の概要について、その意義と、具体的に問題となるケースを学ぶ。	講義	企業と個人の破産について具体的イメージを持ち、手続の概要を説明することができる。	(復習) 破産・民事再生手続に関する配布資料を読み返し、概要をまとめること。	180	主体性 課題発見力 規律性
12週 /	刑法1 刑法の概要(歴史的成立過程、罪刑法定主義の意義ほか)について、条文と判例を分析しながら学ぶ。	講義	刑法について具体的イメージを持ち、概要と位置づけを説明することができる。配付資料に要点を書き込む。	(復習) 刑法に関する配布資料を読み返し、概要をまとめること。	180	主体性 課題発見力 規律性
13週 /	刑事手続法1 刑事裁判手続(逮捕から刑罰の確定までの流れ)について概要を学ぶ。	講義	刑事裁判手続について具体的イメージを持ち、概要を説明することができる。配付資料に要点を書き込む。	(復習) 刑事裁判に関する新聞記事を探し、目を通すこと。	180	主体性 課題発見力 規律性
14週 /	行政法1 行政法上の重要原理である法律による行政の原理について学ぶ。	講義	行政法について具体的イメージを持ち、概要を説明することができる。紹介した判例の趣旨を説明することができる。	(復習) 行政に関する新聞記事を探し、目を通すこと。	180	主体性 課題発見力 規律性
15週 /	まとめ	講義	講義全体を振り返り、学習内容を整理する。	(予習) 14週までの配付資料に目を通し、15週目の解説を踏まえ、要点を整理すること。	180	主体性 課題発見力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力